

水稻の生育は回復基調 中干し(「ワキ」対策)は慎重な判断を

ＪＡたきかわ営農部
空知東部地区農業改良普及センター

移植後の生育は概ね順調ですが、ほ場の差が大きく、入水前までにほ場の乾燥が進まなかったほ場では、土壌還元による「ワキ」で生育停滞が見られます。今後、気温が高く推移した場合、幼穂形成期が早まり、それまでに十分な生育量が確保されない可能性もありますので注意が必要です。

分けつ期中の干し実施上の注意！

- 1 「ワキ」が軽度な場合は水こうを開放し、水を入れ替えて根に新鮮な酸素を供給しましょう。
- 2 分けつ期中の干しは生育が抑えられ生育遅延するため、根が黒くなったり根腐れが見られるような強度の「ワキ」への応急処置として行います。
- 3 実施する場合は低温の影響の少ない6月下旬が目安です。
- 4 低温の恐れのない、晴天日が1週間程度見込める場合に実施します。
- 5 溝切りを併用し早急な落水と土壌乾燥化を図り3～5日で終わるようにします。
- 6 中干し期間中に低温が予想される場合、また、幼穂形成期(幼穂が2mm、平年7月1日)を確認したら中干しは直ちに中止し、たん水します。

カメムシの発生はやや遅い？

6月16日のすくい取りでは5齢幼虫(数日で成虫になる段階)は確認できましたが、成虫は確認できませんでした。例年では成虫が確認できる時期ですが、やや遅れている傾向にあると考えられます。今後の発生動向に注意してください。

苗床の管理

今年は近年になく「ムレ苗」が多発しました。低温・過湿が主な原因です。透排水性改善とpHの確認・矯正は8月中に実施してください。

刈払機の事故、農薬の誤用や保管に注意